

## 2019年度 学校経営計画

### 1 学校教育目標

- ア 知性を高め、豊かな創造力を養う
- イ 健康で自律の精神に満ちた人間性を培う
- ウ 誠実で実践力のある人間形成をめざす

### 2 学校の特徴

#### ア 生徒数80名程度の小規模校

本校は、昭和25年に福野高等学校平分校として設立され、令和2年に創立70周年を迎える。各学年普通科1学級、全校生徒80名程度の小規模校であり、「少人数で授業を実施できる」「一人一人に目がゆきとどく」など小規模校ならではの利点がある。

#### イ 一人一人が担う大きな役割

学校行事や生徒会活動では、生徒一人一人がそれぞれの役割を担いながら、全員が一致協力して仕事にあたるという体験を通して、大きな成就感・達成感を味わっている。

#### ウ 特色ある教育活動

本校は豊かな自然に囲まれ、世界文化遺産地区に隣接している。五箇山地域は多くの文化・郷土芸能が伝承されており、ふるさと教育を推進していくための環境が整っている。毎年5月には、小中高合同運動会を開催している。小中高合同で行う競技や地域の方々・保護者も参加する合同演技（こきりこ唄）があり、地域の大きな行事の一つとなっている。また、台湾の新北市にある中華高級中学とは学術教育交流を行っており、ふるさと教育の国際比較や成果の発信等を行う格好の機会になっている。

部活動では、郷土芸能部が、全国高等学校総合文化祭で最優秀賞・文部科学大臣賞を2度受賞するなど、入賞回数全国一を誇っている。スキー部も全国大会出場の常連であり、数々の入賞を果たしている。また、昨年度発足した五箇山ガイド研究会（GGS）は、近くの世界文化遺産合掌集落において本校生徒が外国人を含めた観光客に観光ガイドを行うもので、生徒の表現力・英語力を養うとともに、地元の活性化にも役立つと期待している。これらの活動は、参加した生徒に大きな達成感と自信を与えるとともに、学校の活性化に大いに寄与している。

### 3 学校の現状と課題

生徒間の学力差が非常に大きいため、わかる授業や能力差に応じた授業の工夫が必要である。そのためには少人数の良いところを生かし、アクティブラーニングやICT機器の活用などの取り組みを進める一方、客観的なデータを基に状況を把握し授業を改善していくことが大切である。

また、本校は上記のように小規模校の利点がある一方で、生徒同士が互いに切磋琢磨する場面が少なく、現状に安住しようとする傾向が見られる。そのため学校行事や部活動等で主体的に活動する機会を増やすことによって、生徒の自主性、創造性を育てていきたい。

近年は、地元の人口減少とともに、本校全体に占める地元生徒の割合も減少しており、集団の意識に変化がみられる。地域に愛される一方、地域に貢献することで、生徒が3年間学んでよかったと思える魅力ある学校づくりにさらに取り組む必要がある。